

「腫瘍内科セミナー」を開催

2014年10月9日

10月9日(木)にがん進展制御研究所棟4階会議室において、デューク-シンガポール国立大学 Sin Tiong Ong 博士を迎え、「Look Beyond the Target: How Lessons from Chronic Myeloid Leukemia Can Improve Cancer Targeted Therapies」と題して、がん進展制御研究所腫瘍内科セミナーを開催しました。

セミナーでは、慢性骨髄性白血病における BIM 遺伝子多型による分子標的薬耐性の分子機構や、急性転化に対する新しい治療戦略、生理的低酸素状態による分子標的薬耐性についての講演をしていただきました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら五十数名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



Medical Oncology Seminar

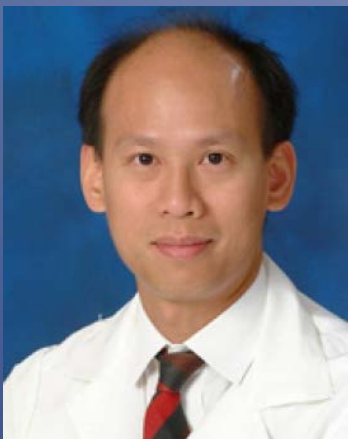
日時:2014年10月9日(木)17:00-18:30

会場:がん進展制御研究所(角間) 4F会議室

※会場は、角間キャンパスです。ご注意ください。

特別講演

Look Beyond the Target: How Lessons from Chronic Myeloid Leukemia Can Improve Cancer Targeted Therapies



Dr. Sin Tiong Ong

Duke-NUS Graduate Medical School Singapore
Cancer & Stem Cell Biology Program,
Singapore

共同利用・共同研究拠点 国際共同研究者

Ong先生は、BIM遺伝子多型がCMLやEGFR変異肺がんにおいて分子標的薬に対するアポトーシス抵抗性を惹起するという新しい耐性機構を発見しました(Nat Med 2012)。BIMはアポトーシス誘導に必須の蛋白質で、その多型は東アジア人特異的に13%程度の個体にみられます。現在、BIM遺伝子多型が生じるメカニズム解明や、BIM遺伝子多型が惹起する分子標的薬耐性の克服に向けた研究をされています。

非常にわかりやすいきれいな英語で講演してくれますので、是非セミナーにお越しください。

担当:腫瘍内科 矢野聖二(秘書:堂林) 内線2794(宝町)